
2006年度「産業と環境」国際シンポジウム 報告書

持続可能なライフスタイルとビジネスモデルを求めて ～「持続可能な消費と生産」の政策動向～

日 時：2007年1月17日（水） 13：30～17：15

場 所：神戸ポートピアホテル本館（神戸市中央区港島中町）

主 催：(財)地球環境戦略研究機関（IGES）

後 援：環境省、経済産業省、兵庫県、神戸市、アジア太平洋地球変動研究ネットワーク（APN）、
(財)国際エメックスセンター、(財)兵庫県環境クリエイトセンター、兵庫県大気環境
保全連絡協議会、地球環境関西フォーラム、関西広域連携協議会、(社)関西経済
連合会、兵庫県商工会議所連合会、(財)ひょうご環境創造協会、兵庫県環境保全管
理者協会、大阪商工会議所

2006年度「産業と環境」国際シンポジウム 持続可能なライフスタイルとビジネスモデルを求めて ～「持続可能な消費と生産」の政策動向～

「持続可能な消費と生産」は、2002年の持続可能な開発に関する世界首脳会議（WSSD）においてその重要性が再確認され、消費者と生産者が協調して環境負荷を一層低減できる社会経済システムの構築が模索されてきました。この課題について、グローバルな視点から検討し、今後の方策を探るとともに、多くの人々に認識していただくため、IGES関西研究センターは、「持続可能なライフスタイルとビジネスモデルを求めて～『持続可能な消費と生産』の政策動向～」をテーマとした国際シンポジウムを、2007年1月17日、兵庫県神戸市にて開催しました。

基調講演1では、ミヒヤエル・クーンツ氏 [持続可能な消費・生産センター（CSCP）（国連環境計画・独ヴッパータル気候・環境・エネルギー研究所協働センター）所長] が、「グローバル・バリューチェーンがもたらす人間開発のイノベーション」をテーマに、貧困の緩和とビジネス機会の創出を両方達成できる「市場を通じた人間開発」というアプローチを提案しました。基調講演2では、郡嶋孝IGES産業と持続可能社会（BSS）プロジェクト・プロジェクトリーダー代行（同志社大学教授）が、「社会経済システム・イノベーションの展望～BSSプロジェクトの研究成果から～」をテーマに、システム・イノベーションの概念を紹介し、BSSプロジェクトで研究されてきた脱温暖化ソリューション・ビジネスモデルや、製品サービスシステム（PSS）ビジネスモデルについて報告を行いました。

パネルディスカッション・パート1では、鎌形浩史環境省環境経済課長が「環境経営政策の今後の展望」について、池田秀文経済産業省環境調和産業室長が「環境面からのビジネス支援政策」について、マーティン・メディーナ主任研究員（IGES北九州事務所）が「途上国における3Rと持続可能な消費と生産～インフォーマルセクターを通じた取組み～」について、神田泰宏主任研究員（IGES関西研究センター）が「持続可能な消費と生産のための地域に根ざした環境ビジネス」について、4名のパネリストがそれぞれ発表を行いました。

郡嶋孝プロジェクトリーダー代行がコーディネーターを務めたパネルディスカッション・パート2では、基調講演を行ったクーンツ氏が加わり、生産者側の取組み、ライフスタイルの転換、新技術の活用などについて議論が行われました。そして最後に、ディスカッションのまとめとして、持続可能な消費と生産に到達するためのポイントが、各発表者から示されました。



目次

プログラム

◆開会の挨拶

森嶋 昭夫	(財)地球環境戦略研究機関 (IGES) 理事長	1
鎌形 浩史	環境省総合環境政策局環境経済課長	3
池田 秀文	経済産業省環境調和産業推進室長	5
石井 孝一	兵庫県健康生活部環境政策局長	7

◆基調講演1

「グローバル・バリューチェーンがもたらす人間開発のイノベーション」	9
ミハエル・クーンツ	
持続可能な消費・生産センター (CSCP)	
(国連環境計画・独ヴッパータール気候・環境・エネルギー研究所協働センター) 所長	

◆基調講演2

「社会経済システム・イノベーションの展望～ BSSプロジェクトの研究成果から～」	39
郡嶋 孝	
IGES関西研究センター産業と持続可能社会 (BSS) プロジェクト	
プロジェクトリーダー代行 (同志社大学教授)	

◆パネルディスカッション 61

[コーディネーター]	
郡嶋 孝	
[パネリスト]	
ミハエル・クーンツ	
鎌形 浩史	
池田 秀文	
マーティン・メディーナ	IGES北九州事務所主任研究員
神田 泰宏	IGES関西研究センター産業と持続可能社会 (BSS) プロジェクト主任研究員
Part-1 報告	
Part-2 ディスカッション	

◆閉会の挨拶

鈴木 胖	IGES関西研究センター所長 (兵庫県立大学副学長)	145
------	----------------------------	-----

主催者挨拶

財団法人地球環境戦略研究機関 (IGES) 理事長
森 嶋 昭夫

皆様、こんにちは。本日は「産業と環境」国際シンポジウムに、このように多数の方々にご参加をいただきましてありがとうございます。

ただいま司会からも申し上げましたが、12年前の本日1月17日は、阪神淡路大震災が発生した日でございます。私は東京におりますが、今も鮮やかに覚えております。震災発生から約2カ月経って神戸に参りましたが、この辺りは全く大変な状態でございます。しかしながら、皆様の大変なご尽力で経済復興を遂げられ、しかも単に経済的な復興だけではなく、同時に環境にも配慮し、環境と経済を両立させながら、今日の神戸、そしてまた関西を成り立たせてこられたことに心から敬意を表したいと思っております。

実を申し上げますと、12年前の1月17日のその日、当時の村山総理大臣官邸において、近藤次郎先生などの有識者によって、アジアでは今まさに環境が問題になっており、それに対する総合的な研究をする必要があり、IGESのような環境に関する研究機関を、日本はアジアのために設立すべきではないかという建議をしておりました。そして、朝5時45分、震災が起きました。しかしながら、皆様覚えておられると思いますが、当初はテレビも含めてこれほど大きな災害だとは認識しておらず、10時からこの会議が開かれたようです。そこへ、震災の被害は大変のようだという情報が届き、首相の諮問機関、それから当時の村山首相自身も、むしろ環境問題の重大さの方に気をとられており、リスク管理がうまくできていなかったということで、後ほど、一体村山内閣は何をしているのだと批判を受けたわけです。その首相に対する諮問機関の提言によりまして、その2年後にIGESができました。そして、IGES設立から3年後、関西研究センターが発足しました。

神奈川県葉山にあるIGES本部では、アジアにおけるさまざまな環境問題、グローバルな問題について研究を立ち上げたところでしたが、関西研究センター設立に際し、どんな研究に取り組むのが最適かを考えました。関西は産業の地であり、取引の地であり、ビジネスの地であります。そこで、やはり関西は「ビジネスと環境」ということを中心にして展開をすべきではないかということになりました。当時、現在もそうですが、関西の産業界の方が是非そういった形でやってほしい、そしてそれを支援したいということで、何人かの研究員も、パートタイムという形でしたが、産業界から参加していただいたわけです。

そして、本日のシンポジウムのテーマは、2004年度から開始されている研究プロジェクトに関するものです。それ以前の研究は、少しテーマを絞り過ぎたのかもしれませんが、環境会計ということで、どのようにして環境問題を、会社経営の中でアカウンティングの中に入れるかということに取り組んできました。現在の研究プロジェクトでは、ビジネスにおいて、最も環境的に効率性の高い生産・販売をやっていくためには、どういったマネジメントを行っていけばいいのかというマイクロなものと、地域レベルという、もう少しマクロのものに取り組んでいるところです。IGESでは3年ごとに研究期間を設けていますので、関西研究センターにおける現在の研究も、今年度で終了ということになります。

本日のシンポジウムでは、どのようにビジネス管理と環境を考えていくべきなのかについて、グローバル

な立場からクーントさんにお話をいただけたと思います。また、環境省の鎌形さんや経済産業省の池田さんからは、それぞれの省庁が、ビジネスを支援するためにどういった政策を推進しているかという観点からお話をいただけることになっております。先ほども申しましたように、関西研究センターでの研究プロジェクトに関するテーマについて、世界全体の動き、日本の全体の動き、そして地域での動きを、いわば総覧をするということになるかと思えます。限られた時間ではございますが、皆様には是非ご質問も含めて活発にご参加をいただければと思います。

本日は、わざわざドイツから、ミヒヤエル・クーントさんにおいでいただき、また、環境省、経済産業省からもわざわざお越しいただき、ご参加をいただきますことを心から感謝いたします。また、これほど多数の皆様にご参加をいただきまして、心から感謝申し上げます。

これをもって開会のご挨拶にかえさせていただきます。ありがとうございました。

来賓挨拶

環境省総合環境政策局環境経済課長
鎌形 浩史

皆様、こんにちは。今ご紹介にあずかりました環境省の鎌形でございます。どうぞよろしくお願いいたします。シンポジウムの開会にあたりまして、一言ごあいさつ申し上げます。ごあいさつの前に、まず12年前の今日、震災で犠牲になられた方々にご冥福をお祈りしたいと思います。

さて、今日のシンポジウムでは、持続可能な生産と消費、ライフスタイル、ビジネスモデル、というのがテーマになっております。環境行政に携わる者として、2007年という年の重要性を非常に考えなければならないと思っています。ご承知のとおり、地球温暖化問題に対して、京都議定書という国際的な約束事がございますが、2008年からその約束の期間が始まります。その前の年に当たる2007年は、1年後にその約束期間を控えた年ということで、地球温暖化対策に関して待ったなしの状況になっております。

皆様ご承知のとおり、日本の約束とはマイナス6%という数字を達成するということではありますが、直近の数字でいいますと、CO₂排出量は1990年比でプラス8.1%ですから、14.1%のギャップがあるという厳しい状況です。特に本日のテーマからもいろいろ考えますと、ライフスタイルという意味では、1990年比で、家庭部門では37%、オフィスに至っては42%伸びているという、惨憺たる状況です。今後こういった割合をしっかりと下げていくためには、やはり新しいライフスタイル、新しいビジネスモデルをしっかりと実現していかなければならないと思います。

ただ、ライフスタイルやビジネスモデル、あるいは生産や消費に関しては、強制的に縛りつけていくということだけでは、経済の活力が失われてしまうと思います。そういった意味で、それぞれの創意工夫によって新しいライフスタイル、新しいビジネスモデルを築き上げ、普及していくということが必要なのだと思っています。

創意工夫ということになりますと、日本国内で、また国際的に、あらゆる人々の知恵を寄せ集め、新しい営みとはどういうものかを創り出していくことが、厳しい地球温暖化問題への対応につながるのではないかと思います。そういった意味でも、本日のようなシンポジウムを通じて、知恵を寄せ合う、あるいは情報を交換し合うことが非常に求められていると思います。

来年から京都議定書の約束期間が始まるので、悠長なことは言っておられませんが、やはりみんなの知恵を早急に集めていかなければならない時期なのだと思います。本日のシンポジウムが、知恵を寄せ集めて、新しい良い知恵を生み出していくような場になることを期待しまして、私のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

来賓挨拶

経済産業省環境調和産業推進室長
池田 秀文

経済産業省環境調和産業推進室の池田でございます。先ほど環境省の鎌形課長さんの方からのご挨拶で、ほとんどおっしゃっていただきましたので、私の方からあまり申し上げることがありません。

最近、環境とか環境ビジネスといった分野は、日に日に概念が非常に広がってきております。

一方、国の方では予算や人員が非常に厳しくなっております。

本日この場に参りましたのは、ステークホルダーである皆様とコミュニケーションをとらせていただき、施策に関するいろんな知恵やアイデアを、共に自主的に創意工夫をもって出し合って、できれば実行についても、皆さんと力を合わせ、少しずつ前に進めていけたらなと思っており、期待しているところでございます。

「がんばろう神戸！がんばれ日本！がんばれ環境と経済！」本日はよろしく願いいたします。

来賓挨拶

兵庫県健康生活部環境政策局長
石井 孝一

皆様、こんにちは。ただいまご紹介にあずかりました兵庫県環境政策局の石井でございます。本日は、IGES関西研究センターの「産業と環境」国際シンポジウムが、この兵庫県の地において盛大に開催されますことを、地元を代表いたしまして心から歓迎を申し上げたいと思います。

さて、地球環境問題への対応や循環型社会の形成につきましては、まさに国を挙げての再重要課題の1つになっているところでございます。先ほどもお話がございましたように、この問題に取り組んでいくためには、国、地方公共団体、企業、NPO、各種団体、そして国民一人一人に至りますまで、すべての主体が実践活動を行うということを求められており、今まさにその時期を迎えているものと考えております。

このため本県では、「環境の保全と創造に関する条例」を、平成7年、先ほどからお話がございます阪神淡路大震災のまさにその年に策定いたしました。実はこの条例は、震災前までに、ある程度のところまでできておりました。しかし震災を経験しまして、自然に対する畏敬の念や、また当時県下全域で解体工事が非常に多数行われ、実はこの段階でアスベストの問題が非常に出ておりましたので、アスベストに対する規制もきっちり条例の中に書こうということで、盛り込みました。それが結果として、今回の株式会社クボタの事案でアスベストが非常に大きな問題になった際に、いち早く手を打てるきっかけになったという、皮肉な経緯がございます。

循環型社会の形成につきましても、「兵庫循環社会ビジョン」を策定しまして、本県としましては、持続可能な社会の形成に向け、様々な施策を講じさせていただいております。

先ほど冒頭で、震災犠牲者のために黙祷を捧げていただきました。実は私自身も被災者の一人ですが、本日で丸12年を迎えることとなります。この間、国内外の皆様から寄せられました本当に心温まります励ましや、多大なるご支援に対しまして、この席をお借りしまして、皆様に感謝申し上げたいと思います。そして我々は、阪神淡路大震災で得ました教訓を忘れることなく、先ほど申し上げましたように、自然に対する畏敬の念をきっちりと踏まえた中で、環境の施策について対応をして参らねばと考えております。

兵庫県としましては今、究極の目的として「共生と循環の環境適合型社会の形成」を掲げ、この実現に向けまして、我々全力を挙げていろんな施策を展開して参りたいと考えております。

最後になりましたが、本シンポジウムが実り多いものとなり、この成果が全国、そして世界への貢献に向けて情報が発信されますことを心からご祈念を申し上げまして、簡単ではございますが、私からのご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

